

四恩説の研究

熊澤宗男

一般的に「恩を受ける」「恩返し」などと使われている「恩」という語であるが、この「恩」の対象を四つに限定したものが四恩である。この四恩は、「恩」の対象を四つに限っているから、何を対象にするかによって異なつたいくつかの四恩説が成立している。

今回の発表は、この四恩について(1)漢訳經典にみられる四恩、(2)日本における四恩について述べ、さらに、(3)四恩に対する見解として現代的視点からの四恩説を考えるものである。

(1) 漢訳經典にみられる四恩説

「四恩」という語は、3世紀から4世紀に訳出された漢訳經典の中に多くみることができ、吳の康僧会の『六度集經』卷第一⁽¹⁾や吳の支謙の『維摩詰經』卷上⁽²⁾には、「四恩」という語が訳出されている。その他にも、『十住斷結經』二〇卷⁽³⁾、『須真天子經』四卷⁽⁴⁾、『普曜經』八卷⁽⁵⁾、『放光般若經』二

〇卷⁽⁶⁾、『超日明三昧經』二卷⁽⁷⁾などの經典に「四恩」という言葉が用いられている。しかし、これらに訳出されている「四恩」には、意味や何を対象にしているのかという具体的な内容は明示されていない。その後、訳出された經典には、「恩」の対象を四つに限定して示されている。般若流支によって訳された『正法念處經』七〇卷の卷第六一には、

若離聞法。無有一法能調伏心。如聞說法有四種恩。甚為難報。何等為四。一者母。二者父。三者如來。四者說法法師。若有供養此四種人。得無量福。⁽⁸⁾

とあるように、母・父・如來・說法法師の四つを「恩」の対象にしている。さらに、般若三藏によって訳出されたものには二種類の四恩をみることができ、そのうち『諸仏境界撰真經』卷下には、

于時行者。作是法已。廻向發願。依此功德。第一國王第二父母第三施主第四法界一切衆生。悉皆速証無上菩提。⁽⁹⁾

とあるように、國王・父母・施主・衆生の四恩が述べられて

おり、『大乗本生心地観経』卷二の報恩品には、

世出世恩有其四種。一父母恩。二衆生恩。三国王恩。四三宝恩。⁽¹⁰⁾
如是四恩。一切衆生平等荷負。

とあるように、父母・衆生・国王・三宝の四恩が示されている。ここで注目すべきことは『正法念処経』に無かった「衆生の恩」と「国王の恩」が共通して登場していることである。衆生の恩というのは、大乘仏教思想の影響によるものと考えられ、国王の恩に関しては、当時の社会における国王の影響力が仏教の思想に及ぶほどであったといえる。この他にも、次のような四恩説が説かれている。

『智覚禅師自行録』 一卷⁽¹¹⁾

文冲

一、師長 二、父母 三、国王 四、施主

『釈氏要覧』 三卷⁽¹²⁾

道誠

一、父母 二、師長 三、国王 四、施主

『四分律行事鈔資持記』 一六卷⁽¹³⁾

元照

一、国王 二、父母 三、師僧 四、檀越

『諸乘法数』⁽¹⁴⁾

行深

一、国王 二、父母 三、師友 四、檀越

一、諸仏 二、国王 三、父母 四、施者

ここで、漢訳經典に挙げられている恩の対象を分類整理してみると、①父母（父、母） ②衆生 ③国王 ④三宝（如来、説法法師、師僧、諸仏） ⑤施主（檀越、施者） ⑥師長（師友）

の六つに分類することができる。しかし、施主・檀越・施者・師長・師友の恩というのは広い意味で衆生の恩の中に含めることができる。また、この分類から種々の四恩説は『大乗本生心地観経』の四恩説に集約できると考えられる。

(2) 日本における四恩

日本文学において、四恩は『日本霊異記』三卷や『今昔物語集』三十一卷⁽¹⁵⁾などに登場するが、内容については語られていない。しかし、仏教説話が集められている『雑談集』十卷⁽¹⁷⁾には、『大乗本生心地観経』の四恩説と同様の四恩が述べられている。

さらに、日本の高僧達によって著された書物の中にも四恩説が述べられている。たとえば、空海の『性霊集』卷八の「先師の為に梵網経を講釈する表白」⁽¹⁸⁾などの箇所には順序は異なるが、前述と同じ四恩説が説かれている。また、日蓮の『開目鈔』や『報恩鈔』、安然の『普通菩薩戒広釈』にも同様の四恩説が述べられている。さらに、証空の『五段鈔』には「故に『心地観経』に云く慈父の恩高きこと山王の如し、慈母の恩深きこと大海のごとし云へり」とある。

以上のように、日本の文学や日本の高僧たちの著作においても四恩が説かれているが、『大乗本生心地観経』の四恩説の影響を受けている。一般的に「四恩」といえば、父母・衆

生・国王・三宝の恩を指す場合が多いのはこのような影響からであろう。

(3) 四恩説に対する見解

『大乘本生心地観経』の四恩について、それぞれ考えてみると、「父母の恩」というのはこの世に誕生できたのは父母のお陰であり、成長する過程においても、多大な恩恵を受けることに對する恩である。また、「衆生の恩」というのは人が成長していく過程において、師や友人など多くの人々のお世話になる。人間が生命を維持する上で多くの生物（動物・植物）の恩恵を受けるといふことに對する恩である。さらに、「三宝の恩」というのは、我々は限りのない仏の恩によつて生かされていることに對する恩である。ここで「国王の恩」の「国王」とは、国を支配する王、国の統治者ということである。つまり、国が安泰で毎日の生活が送られるのは、国の統治者である国王のお陰、国王の力によるといふことに對する恩といふことになる。この「国王の恩」の存在については、王権の支配の強かった中国及び日本において、王権と妥協しつつ仏教が広まるのに必要であつたとも考えられる。

まとめ

漢訳經典および日本における四恩では、『大乘本生心地観

経』に示されている父母・衆生・国王・三宝の恩に代表される。そして、これは他への影響も多く、多方面に広く伝えられている。しかし、この四恩説を現代的視点から考えた場合はどうだろうか。

今日は、地球環境の悪化、環境破壊、エネルギー問題など「地球的問題群」が取り沙汰されている。このような現代において、自然の恵みに感謝する心、自分の周りを取り囲む自然環境に感謝する心を養うということは大切なことである。このような点から、四恩の中に自然に感謝する恩を含め、説くのもよいのではないだろうか。同様の見解からか、現代では「国王の恩」を異なった名称に代えて説明しているものが見られる。

- 1 大正三・五・上・三〇・上 2 大正一六・五二〇・中 3 大正一〇・九八〇・下・一〇三七・中 4 大正一五・一〇〇・下 5 大正三・四八七・下・四九五・下 6 大正八・一二六・中 7 大正一五・五三四・中 8 大正一七・三五九・中 9 大正一八・二八四・中 10 大正三・二九七・上 11 続藏二・一六・一 12 大正五四・二八九・中 13 大正四〇・二三五・中 14 『仏学三書』第一 15 卷上 日本古典文学大系七〇・一五五 16 卷一五 日本古典文学大系一四・三六一 17 卷一 中世の文学六五 18 『弘法大師全集』第三・五〇八
- 〈キーワード〉 四恩、大乘本生心地観経